

略

會比豆は、和名鈔大豆條烏豆クロマメの次に出せり、會比とは燕の羽色にや因りぬらん、按にいにしへ蕎
も紫赤の色なり、又鵝を會比と云は別義なるべし、烏豆は蔓豆に對へし名なり、亦實取とも粒とも云ハ、蔓豆の莢を併
食に異なればいへり、此もの早晚二品あり、その状は小豆に似て、其實梢に著て、莢上に向ふこと、
獨大小豆に異ヘリ、故に擊の義にていふと見えたり、されど狹々解トクなどの意にや、佐々利艸の名
中略○早豆は四月廿日より晦日まで、暗夜に蒔る也、月夜に種おろせば實ならずといへり、藪中
沙場ともえらばず皆うゝるなり、草とり肥養にも及ず、七月頃收て、其下アに蕎麥を種るべし、晚豆オキ
豆ハ霜豆と名く、○中この二種ともに實房の成著より漸々摘採なり、幹ハ特生にして、苗の高
四五寸許、莢に双生と數生とあり、作れる地は去年の粟菔の跡よろし、畠の肥過たるは、其葉にの
み勢ユキ至てあし、只礮壤閑散アレチ又ハ大小麥の中に併植べし、是良田をつひやさずして、培養の艱な
く、又飯粥にまじへ、餛飩の餡ともなす、其用またく赤小豆とおなじ、亦濟生の良穀なり、奴豆ハ、但
黑白の斑文あるを稱へり、

珂孚豆

〔倭名類聚抄豆十七〕珂孚豆 崔禹錫食經云、珂孚豆和名并知 狀圓圓似玉而可愛、故以名之、
古未女

〔箋注倭名類聚抄稻穀九〕本草和名引孚作禾、下總本孚作愛、按依云如玉而可愛、作愛似勝、下總本如
作似、廣本同、與本草和名合、則作似是、然伊呂波字類抄亦作如、今姑依舊、本草和名無故以名之
之四字、

〔類聚名義抄豆五〕珂孚豆キトコマメ

〔伊呂波字類抄植物附植物具〕珂孚豆キトコマメ 狀圓如玉可愛也

〔多識編穀三〕魯豆或云古久仁加志

〔庖厨備用倭名本草豆二〕魯豆ルソウ 倭名抄ニ魯豆ナシ、多識篇或云コクニカシ、考本草、田野ニ生ズ、小

魯豆